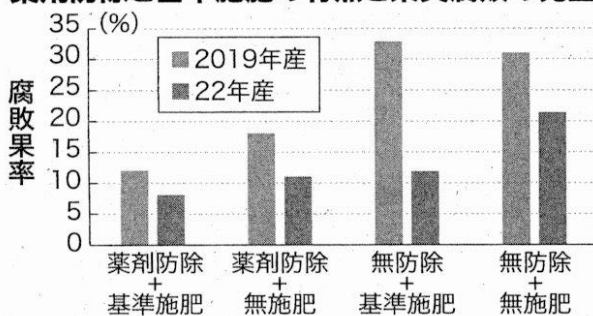




薬剤防除と基準施肥の有無と果実腐敗の発生



近年、露地栽培のビワでは、果実の内部から腐敗が進行する障害（果実腐敗）の発生が生産上の大きな課題とな

露地栽培のビワ 腐敗防止

薬剤防除と適正施肥 組み合わせ管理有効

ついています。この果実腐敗の主な原因はカビの一種である灰斑病菌であり、この菌がビ

剤防除と適正施肥を行う耕種的な樹体管理を組み合わせることで果実腐敗の発生が抑制できないか検討しました。

その結果、開花期に3回の薬剤防除を行い、基準量（年間窒素施用量10kg当たり20g）を施肥することで、薬剤防除だけの場合、基準施肥だけの場合、および防除、施肥とも行わない場合のいずれの場合と比べても、果実腐敗の発生が抑制されることが判明しました（グラフ）。

ただし、窒素の過剰施肥は果実が硬くなるなど、食味に影響するため、施肥基準に基づき適正量を施用してください。

ワの葉に引き起こす灰斑病は、県基準施肥量の半量以下では、増加することが明らかになっています。そこで、薬

なお、この成果も含め、ビワの果実腐敗を防止するマニュアルを農林技術開発センターのホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。



QRコードからも「ビワ果実腐敗防止マニュアル」にアクセスできます

（長崎県農林技術開発センター）
果樹・茶研究部門カンキツ研究室 主任研究員 内川 敬介